

9 月 号

発行所 田代村公民館
電 話 1 9 番

発行責任者 湯ノ谷米吉
編集責任者 小川 兵一

鹿児島市易居町2
印刷所南日本新聞社印刷局

修学旅行を行なわねめて乗つた東京
旅行行「つくし」号。大なる希
望に胸を膨らせながら車中の人と
なつた私共はかわり行く途中の農
作物、別荘のような農家の住宅等
を眺めながら三十二時間で東京着
一路千葉へ向つたのでありますが
指示された所は船橋市でした、船
橋は省線電車で三十五分しかか
かりすしかも東京より三分十五
分毎に発車する実に便利な所です
本家なると青志野平原の一部で耕地
は水田のみ少くとも天水の濕田、畑
作本位の細農家です、故に農業経
営は大消費地東京を控へての蔬菜
園芸中心であります。

開闢以来も絶対的信用をもつてい
る方であり「家の光」でも二、三
回発表されてゐるそうです、数多
くの知事賞、農林大臣賞の額縁が
その人の業績を物語つてゐると思
ひました。

代表的な家の経営思想
（一）家族数九名（二）労力力家
族四、常備二（三）耕地面積二反
五畝、畑一畝、山林六反歩（四）
家畜牛三頭、豚一頭、鶏三千羽
（五）農機具三台、手太一、カツ
ノ、脱穀機（六）経営主体藤妻
右のような態勢が他の家も大体
体同しく授生は、町中一頭もいす
動力耕種機二台でした。

新しい村づくりをして行く為の
立体的エネルギーとなるべき若い
世代の多くが、幸福に生きる」と
言うことがまつたくわからない
と頭をうてこんで、沈うつな顔
をしていらした、これは社会の腐敗
の上に大きな問題であると思う

つてはその感受性は強い、にも
かわらず近頃の青年は理想を
くせにきまりなくだらしない、
もつと強いて正しく、ある問題
について良心的に云うと考える意
見は視認され、ある一部の人の利
害で阻止される現状にあるとほげ

りませんでした。
斯ような生活の中にとびこんだ生
徒達はもはやくしてゐるわけには
参りません、唯もうまつしぐさにな
つて家庭の人と同様骨惜しみな
く働きました。
しかし久く中にも経営上の諸問題
についての座談は勿論です。
第二に各作物の出来のよいこと。

救急法講習會開

私達が幸福な生活を営むための
要条件に健康と安全が先ず挙げ
られますよう。「健康な体」これ
生活の基盤であり、活動の根源
であります。然し私達は病気、災
害、不慮の事故等によつて健康は
一、日常突発的な病氣
二、三角布の使用法と応用について
一、患者の動かし方
二、運搬法

結果になります。
次に呼吸が停止し
については直に人工
施でありますが之が
て人命を生へ導くた
方法であります、即

し暑き盛夏の候も何時しか涼し
秋風に變つて愈々秋蔬菜の播種
と成りましたが皆極方すでに播
種を終えられた事と察しますが我
らは何時も多忙で一年から年中
を通じて居りますので播種の適期
めには露氏二六一一
が必要であるから遅く
場合九月上旬には播種
ればなりません「土壌
の中には九三%一九五
含有する」とする土壌

調製について

であります。が本呼吸法を四時間
継続実施し人命を救つた例も少
ないので、家族を慰さめる意味
からしても最低二時間は実施す
べきものと思ひます。

1、毒蛇(マムシ)について
毒蛇に噛まれたら医者の治療を受ける前に次の応急手当をいたしましょう。

2、患部の上部を強くきびる
患部の内毒歯の箇所を三カ所以上万力で切り血が出なくなるまで吸出す。

以上三日間に亘る講習内容を略記いたしました。が、実技及び詳細については直接本講習会に参加された小組合長及び婦人会長の方々より機会を見て指導を受けられるよう特にお願いいたします。

厚生 中原

三、縦覧期
自昭和
一月九
四、確定期
昭和三十
（田代）

期間（異議申立期間）
昭和三十年十一月五日
至十一月十九日（十五日間）
期日
昭和三十年十二月二十二日
村選舉管理委員
